

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 沖縄県離島航路確保維持協議会

評価対象事業名: 離島航路運航費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
伊平屋村(伊平屋～運天)	伊平屋島と沖縄本島への唯一の公共交通機関として、伊平屋～運天港を1日2便運航し、島民の生活航路として欠かすことの出来ない役割を担っている。	伊平屋島の住民移動窓口や広報誌、切符売場での広報等により事業内容の周知が図れている。「沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業」、村実施の「自動車航送コスト負担軽減事業」、「伊平屋村ふるさと割引運賃負担軽減事業」等の利用促進に繋がっている。	A 台風・荒天等により運航できない日があったが、事業は概ね適正に実施された 連続欠航日数:2日	B 旅客数は目標を達成できたが、自動車航送台数は公共工事等の減により目標を達成できなかった。	・引き続き、「沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業」や「自動車航送コスト負担軽減事業」の利用促進を図り、また民泊事業の推進、交流人口(観光客等)の増加及び村内各種イベントでの誘客数の増加を図る。
伊是名村(伊是名～運天)	伊是名島と沖縄本島を結ぶ唯一の交通機関として、伊是名～運天港を1日2便運航。村民の生活基盤として欠かすことのできない重要な役割を担っている。	伊是名島の広報や切符売り場(窓口)などにより事業内容の周知が図られ、沖縄県離島住民等交通コスト負担軽減事業や伊是名村自動車航送コスト軽減事業の利用促進につながった。	A 台風・荒天等により運航できない日があったが、事業は概ね適切に実施された。 最長欠航日数は1日	A 【運航回数】計画 700回／実績 692回 悪天候等による欠航。 【旅客輸送】 計画 48,507人／実績 62,909人 コロナの影響がなくなり、イベント等での入域者も増加。 【自動車航送】 計画 24,294台／実績 27,658台 コロナの影響がなくなり、休日のキャンプ等利用者が増加。	・利用者が回復し、引き続き離島住民等コスト負担軽減事業や自動車航送コスト軽減事業の利用促進、観光協会と連携した民泊事業等を推進し修学旅行生等の増加を目指す。

粟国村	地元住民の生活航路として、泊港～粟国港を1日1往復している。	前年度同様、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業や、粟国村自動車航走運賃低減化事業のほか、令和5年4月から那覇発往復割引(粟国村交通移動手段低減化対策事業)が持続的な効果に繋がっている。また公共工事の継続で今年度も自動車航送が増加している。	A	運航回数は前年度同様で最長欠航連続日数は、7日間。	A	<p>旅客数は令和5年4月から開始した「粟国村交通移動手段低減化対策事業」の効果により、計画値28,758人が31,986人と111.2%の達成率。自動車航走は公共工事の継続や自動車航送運賃低減化事業の利用増で計画値5,450台に対し7,574台と139.0%の達成率となった。貨物も旅客や自動車航送増に伴い141.7%の達成率となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車航走や貨物については、公共事業減による反動を低くするため新たな取組(施策)構築を目指す。 ・経営改善の意識を徹底し、日頃から船舶の整備や管理等を行っていく。 ・職員の労働環境の改善も喫緊の課題として取り組むべきと考える。
有限会社 神谷観光 (平敷屋～津堅)	地域住民の生活航路として1日／5便の往復運航 (高速船:2便、フェリー:3便)	・離島住民交通コスト負担軽減事業の利用促進を図った。	A	<p>台風や荒天による欠航が発生したが、適宜、高速船への入替運航等に対応し、当該事業は適切に実施出来た。</p> <p>最長欠航日数:1日</p>	A	<p>目標に対する実績 【運航回数】 目標 1,825回／実績 1,805回 達成率 98.9% 直接的な台風影響及び荒天による欠航も少なく、安定した運航が出来た。</p> <p>【旅客輸送】 目標 86,269人／実績 105,312人 達成率:122.1% 台風の影響も少なかったため、県内外の観光目的のお客様が増加</p> <p>【自動車航送】 目標 3,593台／実績 3,752台 達成率:104.4% 公共工事の工程終了に伴い、取扱いは減少したが、全体ではほぼ計画値に近い結果となった。</p> <p>【貨物】 目標 731t／実績 543t 達成率:74.2% 特産品の生産量が減少している為、貨物全体では大幅に減少している。一方で観光客増に伴い、自転車や自動二輪等は増加。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・離島住民交通コスト負担軽減事業利用者の維持・確保 ・うるま市が実施する島内での実証事業と連携した、告知や利用促進に向けた取り組み。 ・観光客増へ向けた、行政または島内事業者との連携。旅行会社への商品化アプローチを行う。

<p>合資会社 福山海運 (与那国～石垣)</p>	<p>与那国島から石垣島を唯一結ぶ生活航路の公共交通機関です。 【久部良港～石垣港】 ※週2航海往復運航 (与那国発 水曜日・土曜日) (石垣発 火曜日・金曜日)</p>	<p>今期も前期同様に与那国町ホームページ・パンフレット等を空港、港に設置してもらいその結果 旅客・自動車航送が増収となりました。しかし公共事業減少や悪天から農業の不作・不漁が続き貨物はトン数ダウンとなりました</p>	<p>A 今期も前期同様に異常気象により、台風、冬場のシケ(荒天)による欠航が多くありましたが臨時便での対応をしました。規定運航計画から若干の運航回減になりました。荒天欠航22航海、臨時運航が22航海です。最長欠航連続数は7日間でした</p>	<p>A 計画目標から、旅客数、自動車航送台数、増加となり目標達成することが出来ました。 旅客の増加要因：豊年祭やハーリー与那国マラソンなどのイベントが一度も悪天候にならなかったこと、飛行機が満席で船便に変更される観光客や自衛隊員によるものと考えられる。 自動車航送台数の増加要因：自衛隊員の引越しや転勤による移動と考えられる。</p>	<p>今後も、異常気象による欠航は予想され、特に与那国航路は大海による冬場の(荒天・台風等は必然的に多くあることを今後も予想されますので、早期に気象情報等から各島内行事実施の際には運航計画の事業変更(臨時運航)等も視野に入れ町行事計画の関係機関とも密に情報共有し観光客及び業者等への早期に案内(ネット・広報等)を活用誘致して参ります。</p>
<p>久米商船株式会社 (泊～渡名喜～久米島)</p>	<p>地元住民の生活航路として泊～渡名喜～久米島間を月曜日を除く毎日、フェリー2隻で1日2往復している</p>	<p>A 渡名喜村や久米島町のHPや切符売り場(窓口)での広報活動等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用促進に繋がった</p>	<p>A 台風・荒天などによる欠航はあったが、当該事業は適切に実施ができた。運航回数は計画650回に対し、実績615回で35回欠航。その内、渡名喜航路欠航は28回で抜港が11回あった。また、最長欠航記録は久米島・渡名喜航路ともに3日。</p>	<p>A 【旅客輸送】 目標45,663人に対し実績は66,288人。コロナの影響がなくなり、国内やインバウンド等の観光客が増え目標達成。145% 【貨物輸送】 目標62,588トンに対し、実績は63,217トンで達成率101%。 給食センターや焼却炉の建替え等の公共工事、そして観光客増で島での消費も増え貨物量が増えた事が要因。 【車輛輸送】 目標10,414台に対し実績は13,033台。達成率125%。公共工事増で工事車両が増えたことが要因。</p>	<p>・離島住民等交通コスト負担軽減事業の継続で利用客の維持・確保を図る。渡名喜村・久米島町・旅行会社等と連携し、観光客・修学旅行等の増加を目指す。また、SNSの活用やキャッシュレス化・WEB予約の導入等で利便性を高め、利用客の増加に努めたい。 ・貨物や車輛輸送は、公共工事や島民の生活等の影響が強いが、両町村、民間工事の受注による輸送量の増加に対応できるよう、日頃から船舶の整備や管理を行う。</p>
<p>合資会社 多良間海運 平良～多良間 航路</p>	<p>島民の生活物資の輸送や、燃料及び建築資材等を輸送し、平良～多良間を1日1往復、月24回運航しています。</p>	<p>A 運航収益は20,586万円で前期と比較しまして1,719万円の増加に成りました。要因としては、前期と比較して1,673万円と大幅な上昇と成りました貨物運賃が上げられます。サトウキビが豊作で黒糖製品の輸送が増え又公共工事が好調で輸送量が増えたためと思慮されます。その他にも旅客運賃20万円の増や自動車航送料が87万円の増加と成りました。 費用は33,379万円で前期と比較しまして、1,476万円の減少。要因としては船舶修繕費の2,411万円の減少が挙げられます。</p>	<p>A 運航回数は250航海計画に対し、冬場の荒天のため欠航があり実績232航海と成りました。今季最長欠航日数は7月で台風接近により8日間の欠航が有りました。それ以外は目標通りに達成出来ております。</p>	<p>A 旅客数は目標3,205人に対し実績4,850人と成りました。前年に対しても93人の増加と成っております、観光客が回復していると思われます。自動車航送台数は目標1,978台に対し2,154台と176台の大幅な増と成りました。前年に対しても54台の増加です。貨物量は目標11,638トンに対し実績12,372トンで734トン増加しました。自動車航送台数及び貨物量は公共工事が順調に推移した他、砂糖キビの豊作で黒糖製品輸送増でアップしたのと思われます。</p>	<p>国営の大型公共工事が令和8年4月から始まり、その他宿泊施設の建設も始まるので資材の輸送をフェリーを利用してもらう様に多良間村や沖縄県に働きかける、多良間村や観光協会と連携をとり、たらま島一周マラソンやピンダーアース大会のイベント等の集客アップを図る。又SNS等も活用して、観光客に周知してフェリーによる船旅の魅力や多良間島のアピールを発信していきます。</p>

株式会社 大神海運 (島尻～大神)	島民の生活航路として、島尻～大神間を1日4往復運航。	沖縄離島住民等コスト負担削減事業の利用促進に繋がっている。	A ・台風、荒天による欠航はあったが、事業は適切に実施された。 【最長欠航連続日数 3日】 ・令和6年10月…強風波浪の影響 ・令和7年3月…強風波浪の影響 ・令和7年7月…台風の影響により3日間連続欠航した。	A 【運航回数】目標1,440回に対し、実績1,227回であった。台風、荒天等による欠航により運航回数は減となった。 【旅客】観光客の増により、目標31,648人に対し、実績は32,159人であった。 【貨物】4～9月にかけてツアーで訪れる利用者が多く、目標7.62トンに対し、実績は20.469トンであった。	・島の過疎化、高齢化に伴い毎年利用者が減少する中で、航路を維持するため燃料費の削減、日々の点検を強化し修繕費の削減に努める。 ・引き続き、離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用率向上を図る。 ・旅行会社、観光業者と連携し観光客へ大神島の誘致向上を図る。
久高海運合名会社 (久高～安座真)	久高島住民の生活航路として、久高島・安座真間を、高速船1日往復3便、フェリー1日往復3便計6往復運航。	ホームページやXで毎日の運航状況を朝に挙げて船に乗りやすくしている。窓口周辺にガイド情報や島での事業内容を知らせ観光客の利用促進に繋がった。	A 台風、荒天による欠航はありましたが、事業は適切に実施された。 【最長欠航連続日数4日】	A 【旅客】連休や、週末に悪天候で欠航になることが多かったが、お盆や、ゴールデンウィーク前半に臨時便対応でなるべく来て頂いた方たちを乗船することができた。 【自動車航送】久高島において小学校、レストランの改装工事があり、それに伴い自動車航送量が増加した。 【貨物】改装工事に伴う資材の運搬があったものの、一部の資材は自動車に積載したため、貨物としての実績は減少した。	駐車場の整備を依頼して、スムーズに乗船してもらえるようにしたい。住民コスト軽減事業の新しい片道利用を促進していく。
有限会社 船浮海運 (船浮～白浜)	島民の生活航路として、船浮～白浜間を以下の通り運航した。 1日5往復 運航回数1,787回(内、8回臨時便)	沖縄県離島住民等コスト負担軽減事業により島民の利用が促進されている。また地元住民が1日2往復する際の適用要請により一部対応可能になった事、路線バスのダイヤ変更や石垣～西表間のフェリー減便により接続が悪くなっていたのでダイヤを見直した事等、地元住民から評価を頂いた。	A 台風や荒天により運航できない日もあったが、事業は適切に施された。 (最長欠航連続日数3日)	B 【運航回数】計画1,825回/実績1,787回台風や荒天による欠航により計画を下回った。 【旅客】計画18,769人/実績19,261.5人 2.62%増加 【貨物】計画5トン/実績3.87トン22.6%減少公共工事が無かったため目標達成には至らなかった。	・引き続き離島住民等コスト負担軽減事業の利用促進をはかるとともに、船浮ファン、観光客誘致に力を入れ利用増をはかる。 ・自社対応による日頃の点検・整備を進め経費や修繕費の削減、燃費の向上に務める。
大東海運(株) (那覇(泊)～南北大東)	島民の生活航路として那覇から南北大東間の運航を行っている。 一往復4日で月5航海から6航海を運航。島の港湾事情が劣悪の為気象に左右される。	南北大東島両村の広告等により事業内容の周知は図られ沖縄離島住民等交通コスト負担軽減の利用促進に繋がった。	A 気象海象が悪い島である為、台風、荒天等に影響を受けることが多い。昨年度は台風の影響の荒天により目標航海には達成しなかったが昨年度より3航海増えた。 (最長延期連続日数) 7月20日～7月31日(12日間)台風の影響により延期。	B 【航海回数】計画60回航海/実績51.0航海 ・荒天の影響による延期が発生した為9.0回の減。 【輸送人員】計画1,553人/実績1,530人 島民の行事交流の利用者(南北間)はあるが観光客・島民の那覇往復間への利用者が減。少しではあるが目標を下回った 【貨物輸送】計画42,175トン/実績49,798トン 貨物は公共工事の建築資材・機械類が増え目標達成	引き続き、離島住民コスト負担軽減事業の利用促進を図り、運行形態の可能な限り需要のダイヤで利用しやすい環境を整備し、南北大東村と広告活動を連携し旅客、貨物の増を図る。

<p>有限会社 安栄観光 (石垣～波照間)</p>	<p>島民の生活物資の輸送や通院など生活航路として石垣港～波照間港を高速船は1日3便(大型高速船は初便と最終便の計2便)、フェリーは週3便往復運航。</p>	<p>・竹富町のホームページ等や切符売場(窓口)での広報等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民コスト負担軽減事業の利用促進に繋がった。 ・波照間航路分科会の開催により関係機関との情報共有と連携を図った。 ・大型高速船(ぱいじま2)が就航したことにより、これまでより多くの旅客が乗れるようになった。</p>	<p>B 台風・荒天などの気象の影響により運航できない日があったが、事業は概ね適切に実施された。 C 最長欠航連続日数は11月18日～11月23日の6日間(高速船)</p>	<p>旅客数は計画は88,000人に対し実績は76,869人となった。 船員不足により冬季の10月から3月の高速船が3便から2便になったことと燃料油価格変動調整金が高騰により観光客の利用が減ったとみられる。 貨客フェリーの運航回数はほぼ計画通りとなったが高速船は荒天や船員不足による減便により計画が1,252便だったが実績は793便と計画を下回った。 自動車航送と貨物が目標を達成できなかったのは公共事業が減ったためである。</p>	<p>・引き続き、離島住民コスト負担軽減事業の利用促進を図る。 ・大型高速船(ぱいじま2)が就航したことによる座席数の増加と就航率の向上をPRし、特に閑散期の旅客数の増を目指す。</p>
<p>伊江村 (伊江～本部)</p>	<p>伊江村と沖縄本島(本部港)を結ぶ唯一の公共公共交通機関として、伊江～本部間を1日4往復し、島民の日常生活や観光・物流を支える重要な交通手段である。</p>	<p>伊江村ホームページや広報誌による情報発信、観光イベントとの連携により、観光客の利用促進が図られた。 また、「沖縄県離島住民等コスト負担軽減事業」「伊江村自動車航送コスト負担軽減事業」「伊江村郷友会船賃割引事業」等により、利用の促進が図られた。</p>	<p>A 運航回数は台風や悪天候の影響が少なく、計画通り事業を実施することができ、航路の維持、確保において適切な運営がなされたと評価できる。 最長欠航連続日数1日(連続の欠航ない)</p>	<p>A 期間：R6年10月～R7年9月 計画に対する実績 【運航回数】 計画1,610回/1,625回 台風や荒天が少なく危険物輸送が増えたことにより計画を超えた運航回数となっている。 【旅客運送】 計画275,704人/実績383,333.5人 運航回数の増加により、旅客が増加している。139.0%増加 【車輛輸送】 計画78,779台/実績88,375台 運航回数の増加により、車輛輸送台数が増加している。 111.4.0%増加</p>	<p>利用者が増加傾向にあり、引き続き「沖縄県離島住民等コスト負担軽減事業」「伊江村自動車航送コスト負担軽減事業」「伊江村郷友会船賃割引事業」等により溜利用促進、伊江村ホームページでイベント等の情報発信を行い観光客や民泊事業、修学旅行生などの増加を目指す。</p>
<p>渡嘉敷村 (泊～渡嘉敷)</p>	<p>渡嘉敷島と沖縄本島への唯一の公共交通機関として、泊港～渡嘉敷港を1日3便(フェリー1便、高速船2便)往復運航。</p>	<p>渡嘉敷村(航路事業者)のホームページや切符売場での広報等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用促進につながった。</p>	<p>A 荒天により運航できない日があったが、概ね適切に実施された。 最長欠航連続日数：8日連続(高速船)</p>	<p>A 【運航回数】未達成 計画997回/実績937回 台風、荒天等による欠航により運航回数の減となった。 【旅客】達成 計画146,267人/実績266,966人 外国人観光客を中心とした増による目標達成となった。 【貨物】達成 計画1,476トン/実績1,945トン 観光客増により村内事業者貨物増による目標達成となった。 【自動車航送】未達成 計画7,360台/実績7,153台 公共工事等の減による未達。</p>	<p>引き続き、離島住民コスト負担軽減事業の利用促進を図る。 また、当該航路をさらに利用しやすくする方法として、車両航送運賃のクレジット決済対応システムの導入を行い、自動車航送コスト低減事業の利用促進を図る。</p>

<p>合名会社水納海運 水納航路(渡久地～水納)</p>	<p>島民の生活物資の輸送や通院など生活航路として、渡久地港～水納港を1日4便(高速船)往復航行。</p> <p>1/1～3/3・11/1～12/31→1日3便 4/1～6/30・9/21～10/31→1日4便 7/1～7/19・9/1～9/20→1日6便 7/20～8/31→1日8便</p>	<p>本部町のホームページや切符売り場(窓口)での広報等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減の利用促進に繋がった。</p>	<p>A</p> <p>台風や荒天候により運航出来ない日があった。</p> <p>最長欠航連続日数:4日間</p>	<p>A</p> <p>【運航回数】 計画1,559回／実績1,259回 ・台風や荒天による欠航が発生した為計画を下回った。</p> <p>【輸送人員】 計画121,149人／実績100,997.5人 ・大阪万博の開催やジャングリアオープンによる影響で目標を下回った。</p> <p>【貨物輸送】 計画60.415トン／実績77.556トン ・水納港工事で業者の資材搬入等、目標を達成。</p>	<p>引き続き、「「離島住民等交通コスト負担軽減事業」の利用促進を図り、町役場及び旅行業社等関係機関と連携し交流人口(観光客等)の増加を目指す。また、船舶のスピードを減速したり、日頃の船舶の修繕を念入りに行うことで経費の削減を目指す。</p>
----------------------------------	---	---	---	---	---